令和八年度　後期日程　文学部　日本・中国文化学科
入学者選抜学力検査問題　国　語

〔注　意〕

1　机上に受験票を提示しておくこと。

2　監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。

3　解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に記入すること。

4　解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。

5　この冊子の問題は余白を含めて十三ページ、解答用紙は一枚からなっている。

6　この冊子のうちに落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。

7　この問題の内容に関する質問には答えない。

8　この問題の満点は一〇〇点であるが、科目配点に応じて三〇〇点満点に換算する。

9　字数制限のある解答では、句読点や括弧なども字数に含める。

10　試験時間中の退出は認めない。

11　問題は持ち帰ること。

一

次の文章をよく読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で文章の一部を省略し、表記を改めたところがある。（40点）

（著作権の関係で不掲載）

（著作権の関係で不掲載）

（著作権の関係で不掲載）

（著作権の関係で不掲載）

（竹田青嗣『新・哲学入門』による）

（注）○結晶化……塩鉱に投げ込んだ枯れ枝がやがて輝く塩の結晶で覆われるように、恋愛感情が強くなると相手を美化し、理想化する心理的な作用。フランスの小説家であるスタンダールが唱えた「結晶作用」をふまえている。　○膂力……筋肉の

力、腕力。ここでは能力と同じ意味。　○シェリング……フリードリヒ・ヴィルヘルム・ヨーゼフ・フォン・シェリング。ドイツの哲学者。　○ショーペンハウアー……アルトゥール・ショーペンハウアー。ドイツの哲学者。　○ハイデガー……マルティン・ハイデガー。ドイツの哲学者。　○趣味判断……個人の趣味に基づいて美的対象を判断すること。　○テクスト論……作者やその意図といった要素を考慮せず、テクストのみを分析の対象とすることで、多義的なテクストの解釈を探る立場。　○言語ゲーム……言語の意味や価値は語そのものに内在するのではなく、人間同士の相互了解のなかで生成されるという考えかた。オーストリア出身の哲学者であるルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインが提唱。　○間主観的信憑……複数の人間のあいだで共有される共通の確信。

問一　傍線部①～⑧について、カタカナは楷書の漢字に改め、漢字はそのよみをひらがなで記せ。

問二　傍線部Ⅰとあるが、この場合の「本体化」とはどういうことか。六〇字程度でわかりやすく説明せよ。

問三　傍線部Ⅱとあるが、「主観的信憑の至上権として始発する」とはどういうことか。四〇字程度でわかりやすく説明せよ。

問四　傍線部Ⅲとあるが、筆者がこのように主張するのはなぜか。本文全体の趣旨をふまえて、一二〇字以内でわかりやすく説明せよ。

（余

白）

二

以下は、皇后四条宮寛子に仕えた下野という女房による文章である。よく読んで、後の問いに答えよ。（30点）

大納言殿、「宮の御前の前栽、丈高し」とて笑ひ申させ給ひて、「知られ参らせで、をかしげならむ、植ゑかへむ」とのたまはするを、心ならず、「見つけ参らせむ」とあらがひ申す。[I]「さらに知られじ」とあらがはせ給ふ。[II]

八月十余日、「この月のうち」と申して、夜ごとに、女房たちかはりがはり起きて見るに、ここにまぼりし夜しも、いみじうをかしきさまに仕立てて持て参らせ給ひける。南殿の方より、夜中過ぎて、人々のけしきして、[ア]いとしるく聞きつけ参らせて見ゐたれば、御前の壺に入る遣戸の樋に、砂を入れて、細く開けておきたるを、いと忍びて開けさせ給ふに、鳴れば、開けさし開けさしする。をかしと見ゐたるに、開けて、人入りて、前栽持て入れむとするほどに、扇うち鳴らし、「かく見奉る」と驚かしたるに、逃げて出づる人、扇を落としてけり。外に殿の御声もして、笑はせ給ふなり。忍びて扇取りに帰り入りたるは、長房の君なりけり。密かにえ植ゑえで、をかしきさまなる台ども仕立てて、あらはれて、植ゑおきて帰らせ給ふ。東面にて、中将に対面して笑ひきこゆ。

又の日、大納言殿の参らせ給ひて、「長房が申すは、『かかる剛の者の守りける夜しも、などてしつらむ』となむ申す」など申させ給ふに、「東三条殿に参りて、知られ参らせで歩かむ」とあらがひ申す。[III]「歩かでも、『歩きき』とあらむは」とのたまはすれば、「『参りたりけり』としるし置きて帰らむ」と申す。「まことに歩き給はむに、知らではいかでかあらむ」とのたまはせて、その夜よりいも寝で、人々守らせ給ふ。「屋の上にさへ人のぼせて置かせ給へり」、「入るべき道に牛をさへ立てふたぎてなむ」とさへ、案内すれば、参り通ふ男たちの語るに、いとおどろおどろしく、十日ばかり聞けば、「いかがすべからむ」と思へど、「[イ]さてのみあらむやは」とて、鹿の形をいとをかしげに作りて、青き薄様を萩の葉に破りて、鹿に押しつけて、書きつけて、夜中ばかりに東三条殿に参りぬ。

つゆおきてたれかは見ける小牡鹿のしがらみふする野辺の秋萩

東の壺に向かひて住ませ給ふに、入らむとすれば、入るべき口に、まことに牛立ちたり。具したりし侍よしのりして退けさせて、具しきこえたる若き女房たちは怖ぢ騒ぎ給ふに、密かに入りて、萩の下にこの鹿を立て置きて、帰るとて御格子を引き見れ

ば、守るとてかけざりければ、引き上げられたる格子のもとに、人々十人ばかり寝たり。母屋に、殿はいとあらはに、御几帳うち上げて寝させ給へり。をかしうて、扇して端を高やかにうち叩きて、「いみじうも大殿籠りたるかな」と申しかけて急ぎ帰りぬ。寝たる人々、寝くたれて起きあがりて騒ぐ。御返し、あけぼのに宮の御簾にぞさされたりし。

しがらみにいつしか来なむと思ふには萩におきたるつゆやとも言はず

（『四条宮下野集』による）

（注）○大納言殿……藤原師実。寛子の同母弟。　○宮……寛子の御殿。　○知られ参らせで……寛子や女房たちに気づかれ申しあげることなく。　○南殿……紫宸殿。　○御前の壺に入る遣戸の樋に～……御殿の中庭の入口にある引き戸の敷居に、戸を開けると音が出るように砂を入れておいて。　○殿……師実。　○長房の君……藤原長房。　○中将……伺候していた人物。　○東三条殿……師実が住む邸宅。　○案内すれば……様子を問い合わせると。　○参り通ふ男たち……東三条殿に出入りする下男たち。　○青き薄様を～……青い薄い紙を萩の葉のかたちに破って。　○つゆおきて～……「秋萩をしがらみふせてなく鹿の目には見えずておとのさやけさ」（『古今和歌集』秋上）を踏まえる。　○しがらみふする……足にからまるものを踏み倒す。　○よしのり……侍の名。　○かけざりければ……鍵をかけていなかったので。

問一　二重傍線部 Ⅰ ～ Ⅲ の主語を、次の ① ～ ⑤ の中から一つ選べ。同じ記号を繰り返し選んでも構わない。

① 寛子　② 下野　③ 師実　④ 長房　⑤ よしのり

問二　傍線部 ア ～ ウ を、文脈を考えながら、現代語訳せよ。

問三　破線部 A について、「かかる剛の者」が誰を指すかを明らかにして現代語訳せよ。

問四　破線部 **B**「しるし」とは何か、本文中の三字以内の言葉で答えよ。

問五　波線部の和歌について、

(1)「つゆ」は、「露」と「少しでも」の意を表す副詞「つゆ」との掛詞である。これ以外の掛詞を指摘せよ。

(2) 具体的な状況との対応がわかるように、全体を現代語訳せよ。

（余

白）

三 次の文章は筆者とある人との議論文である。よく読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送りがなを省略したところがある。（30点）

信義行ハレテ於君子ニ、而刑戮加ハル於小人ニ①。刑入ル于死ニ者ハ、乃チ罪大ニ悪極マル。此又小人之尤モ甚キ者也。A寧以義死、不苟幸生、而視ルコト死ヲ如キハ帰スルガ、此又君子之尤モ難シトスル者也。方ニ唐ノ太宗之六年ニ、録スルコトタイ大辟ノ囚ヲ三百余人、縦ハナチテ使メカヘラレ還家ニ、約スルニ以テ自ラ帰リテ就クレ死ニ。是以テ君子之難キレ能クシ、責ムルニ其ノ小人之尤ナル者ニ、以テ必ズ能クスルヲ也。其ノ囚ハ及ビレ期ニ而卒②自ラ帰リ、無シ後ルク者ニ。是君子之所ニシテ難シトスル、而小人之所レ易ヤスシトスル也。B此豈近於人情哉。

或ヒト曰ハク、罪大ニ悪極マルハ、誠ニ小人ナリ矣。及ビ施シ恩徳ヲ以テ臨ムニ之ニ、可シレ使ム変ジテ而為ラ君子ト。蓋シ恩徳ハ入ルレ人ニ之深クシテ、而移スレ人ヲ之速カナルコト、有リレ如キ是クノ者ニ矣。

曰ハク、太宗之為スレ此ヲ、③所ニ以テ求ムルニ此ノ名ヲ也。然レドモ安クンゾ知ランカ夫ノ縦チテ之ヲ去ラシムルヤ也、不ルヲ意ハカラ其ノ必ズ来タリテ以テ冀ヒネガフコトヲ免レンコトヲ、所ニ以テ縦ツ之ヲ乎。又安クンゾ知ラン夫ノ被テレ縦タ而去ル也、不ルヲ意ハカラ其ノ自ラ帰リテ而必ズ獲エンコトヲレ免レンコトヲ、所ニ以テ復タ来タル乎。夫レ意ハカラ其ノ必ズ来タランコトヲ而縦ツ之ヲ、是上ノ賊スル下之情ヲ也。意ハカラ其ノ必ズ免レンコトヲ而復タ来タルハ、是下ノ賊スル上之心ヲ也。吾ハ見ルニ上下交モコモ相ヒ賊シ、以テ

成ニ此ノ名ヲ也。C 烏クンソ有ラン下所謂④施スト恩徳ヲ、与中夫ノ知ルニ信義ヲ者上哉。不レ然ンバ、太宗ハ施スコトニ徳ヲ於天下ニ、於テレ茲ここニ六年ナリ矣。不レ能レ⑤使ムルニ小人ヲシテ不レ為サレニ極悪大罪ヲ。而レドモ一日之恩、能クム使三レ視ルコトヲ死ヲ如クシテレ帰スルガ、而存セニ仁義ヲ。D 此又不通之論也ト。

（欧陽脩「縦囚論」による）

（注）○刑戮……刑罰。　○苟……なおざりに。　○幸……願う。　○視死如帰……平然と死ぬこと。　○唐太宗之六年……唐の二代目皇帝（李世民）の貞観六（六三二）年。　○録……点検すること。　○大辟囚……死刑囚。　○責……求める。　○尤者……最低のもの。　○名……名誉。　○賊……そこなう。

問一　傍線部①～⑤の読みを、現代仮名遣いにより、送りがなも含めてすべてひらがなで記せ。

問二　傍線部Ａを現代語訳せよ。

問三　傍線部Ｂについて、

(1)　現代仮名遣いにより、すべてひらがなで書き下し文にせよ。

(2)　この場合、「人情」とは、どのような感情のことか。わかりやすく説明せよ。

問四　傍線部Ｃについて、「此名」の内容を具体的に説明せよ。

問五　傍線部Ｄについて、なぜ「不通之論」と言えるのか。わかりやすく説明せよ。